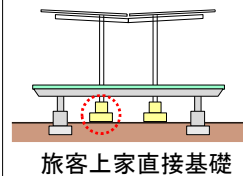


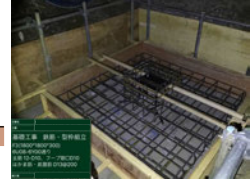
旅客上家直接基礎のプレキャスト化 ～オキカル工法～

背景と目的

ホーム延伸・拡幅に伴う旅客上家の延伸、駅改良工事等の建設工事が続いている。列車間合いの短い夜間施工となる旅客上家直接基礎は、長工期・コストが課題である。
そこで、施工性の改善を目的とし、現場作業を省力化する分割化（プレキャスト化）基礎の開発を行った。

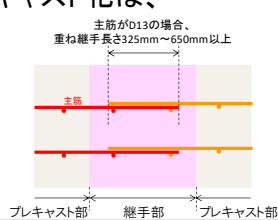


旅客上家直接基礎



開発前の問題点

従来工法によるプレキャスト化は、継手範囲が広いいため現場作業の省力化が図れずにいた。



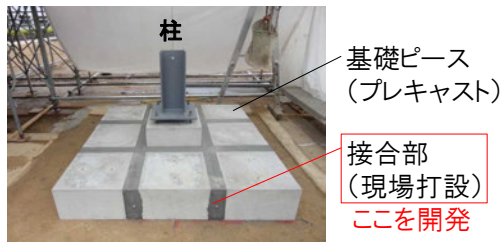
開発してよかった点

在来工法（場所打ち）と比較し

- ・約10%のコストダウン
- ・全体工期短縮および一部の夜間作業の昼間作業化
- ・品質管理の簡易化（昼間の配筋検査、打設時間管理）
- ・環境負荷の低減（戻りコンクリートの削減）

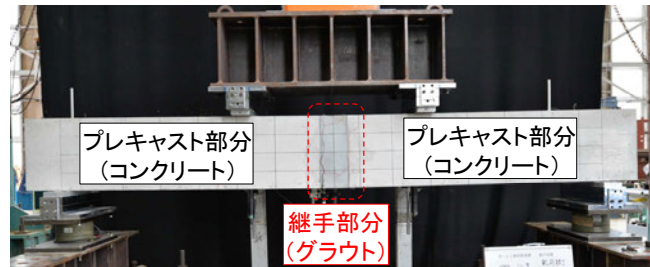
開発したもの

開発工法の概要

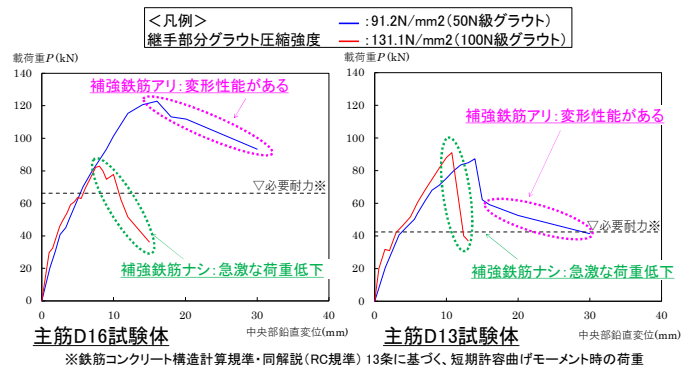


施工試験（接合部内の補強鉄筋の結束可否を判断）

耐力確認試験および結果

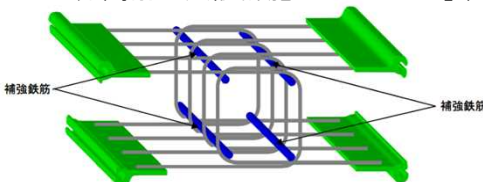


耐力確認試験状況



既往技術からの改良・適用範囲拡大

「非開削工法設計施工マニュアル」閉合重ね鉄筋かご方式



<適用範囲>
鉄筋径16φ以上
鉄筋種別SD345
鉄筋曲げ半径3φ
コンクリート強度24N/mm²以上

建築仕様への
適用範囲拡大

<建築仕様>

鉄筋径13φ

鉄筋種別SD295

鉄筋曲げ半径1.5φ

グラウト強度100N/mm²※

スラブ高さ 250～550mm

スラブ隙間（継手幅）110mm以上

※F_c=21以上のコンクリートおよび50N/mm²級グラウトは界面に沿って早期にひび割れが入るため、耐久性が求められる仮上家等では使用可能